



仙台市議会第3回定例会は、10月8日に閉会しました。第3回定例会では、宮城野区の長年の課題であった福田町・田子・福住町・仙石エリアの水害対策が、大きく前進することになりました。中でも大きく前進するのは、田子排水機場のポンプ増設です。仙台市の「流域治水推進モデル事業」として、水路改良や雨水流出抑制などの総合的な取り組みが進む中、停電時にも稼働できる非常電源設備の整備も検討されます。長年の懸案であった排水能力の向上が、いよいよ具体化します。また、JR仙石線福田町駅の移設と連携した水路拡幅や、農地を活用した「田んぼダム」整備など、多層的な治水対策も始動します。地域の皆さまの声を受け止め、災害に強いまちづくりが着実に形となりつつあります。一方で、10月1日、宮城野区東部で記録的短時間大雨情報が発表され、多くの被害が発生しました。被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。こうした中で、宮城野区東部の排水施設の稼働状況など、議会会期中の出来事として注目された事案について会派を通じて質疑を行いました。あわせてご報告します。

福田町エリアの冠水対策、抜本的な改善策がいよいよ動き出します！

この地域では、梅田川への排水能力が不足しており、周辺の住宅地で冠水が発生してきました。また、過去には田子排水機場の電気室が浸水し、停電によってポンプが停止するなど、設備の脆弱さも課題でした。浸水対策は施したものの、こうした背景を踏まえ、新たに建屋を建設しポンプを増設、停電時にも稼働できる非常電源設備を整備する方針が示されました。梅田川への排水量増加については宮城県と協議のうえ許可を取得し、令和8年度に計画を策定、令和9年度から詳細設計、順次工事着手となる見通しです。地域にとっては、何十年も待ち望んだ抜本的な改善策が、いよいよ動き出します。

田子排水機場に建屋を建設、非常電源を備えたポンプ増設の計画が決定！！

今後の小鶴雨水ポンプ場建設計画と仙石雨水ポンプ場の扱いは

- ☑ **小鶴雨水ポンプ場整備計画の見直しと今後の検討方針について**
この地域の対策として、平成21年に東北学院中学、高校の東側に「小鶴雨水ポンプ場」を新たに建設する計画が策定されましたが、その後の震災による復旧対応や、令和元年の東日本台風での甚大な浸水被害を受け、仙台市全体で浸水対策を見直すこととなりました。加えて、福田町駅移設事業に伴い水車堀を改修することで流下能力が向上する見込みが立ち、現時点では小鶴雨水ポンプ場を新設するよりも、田子排水機場の能力増強が最も費用対効果が高く、早期に効果を発揮できる対策と位置づけられました。なお、小鶴雨水ポンプ場の計画自体が「廃止されたわけではなく」、今後の全体見直しの中で改めて位置づけを整理する方針です。
- ☑ **仙石雨水ポンプ場は今後も地域の冠水対策を支える重要施設として継続**
「仙石雨水ポンプ場」は、当初は小鶴雨水ポンプ場が完成するまでの暫定的な排水施設として整備されたものです。しかし現在では、地域全体の治水システムの中で重要な役割を果たしており、今後も継続して運用していく方針が示されています。仙石雨水ポンプ場も引き続き地域の冠水対策を支える重要な施設として機能していくこととなります。

田んぼダムの整備も始まります！事業完了は令和10年度！

農地を活用して一時的に雨水をためる「田んぼダム」は、今年10月に、対象となる農業者の皆さまへの説明会を開催し、令和8年1月以降に工事を開始する予定です。対象エリアは約170ヘクタールを計画、令和10年度末の事業完了を目指しています。計画した田んぼの所有者の了解を全て頂いた場合、25メートルプール、約300杯分（約18万立方メートル）もの雨水を一時貯留でき、下流域の浸水被害軽減に大きな効果が期待されます。

田子の田園地帯



田子排水機場
(外観・場内1階既存ポンプ設備)



仙石雨水ポンプ場



小鶴雨水ポンプ場計画地
(東北学院東側)

議会録画中継は
こちらからアクセスを！



福田町駅移設事業が前進！！治水とまちづくりが一体で進行

- ☑ **駅の移設と水害対策を一体で進め、利便性と防災力を同時に高めます。**
駅のバリアフリーを目的としたJR「福田町駅」の移設事業は、水害に強いまちづくりをめざす「流域治水モデル事業」と同時進行し、その主要な事業としても進められます。新駅の整備は、こうした課題を抜本的に解決し、地域の防災力と利便性を両立させる取組です。
- ☑ **基本設計を終え、次は“かたちにする”段階へ—施工計画の策定が始まります。**
昨年度には、JR東日本による基本設計が完了し、新駅舎の構造や形状、バリアフリー対応、自由通路の位置などが取りまとめられました。そして、今年度から来年度にかけては、詳細設計と施工計画の策定が本格的に進められます。この段階で、施工方法、実施工程などが具体化され、工期短縮の可否を左右する重要な時期となります。
- ☑ **工期短縮のカギは今！今年度・来年度が勝負どころ——**
地域が待ち望む新駅の早期実現へ向け、いよいよ正念場です。
新駅の供用開始は令和16年度を目標としていますが、私は議会で「地域の皆さんは9年も待てない」として、令和7~8年度の詳細設計段階こそが最大の工期短縮のチャンスであると強く訴えました。これに対し、仙台市は「JR東日本と協力し、可能な限り早期供用に向けて検討する」と答弁しています。
- ☑ **駅周辺の治水・交通を整備へ——安全なまちづくりに向けた取組が本格始動！**
駅舎だけでなく、駅周辺の治水・交通インフラ整備も一体で進められます。JRは自由通路や線路下水路の拡幅を担当しますが、そのために仙台市は駐輪場・自由通路へのアプローチ部の用地取得を今年度実施する他、今後道路・排水施設などの整備を並行して行います。特に、令和9年度からは水路拡幅工事に着手する予定で、これに並行した田子排水機場のポンプ増設により、豪雨時の排水能力が大幅に向上し、福田町エリア（田子・福住町・仙石）の浸水リスクが大きく低減します。



現在の JR 福田町駅

地域の方々が安心して利用できる安全な駅へ——
一日も早い完成を目指して、引き続き議会からも強く後押ししてまいります。